

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2016 年 1 月 7 日(07.01.2016)



(10) 国際公開番号
WO 2016/002324 A1

- (51) 国際特許分類:
A61F 13/15 (2006.01) *A61F 13/49* (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2015/062334
- (22) 国際出願日: 2015 年 4 月 23 日(23.04.2015)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2014-134750 2014 年 6 月 30 日(30.06.2014) JP
- (71) 出願人: ユニ・チャーム株式会社(UNICHARM CORPORATION) [JP/JP]; 〒7990111 愛媛県四国中央市金生町下分 1 8 2 番地 Ehime (JP).
- (72) 発明者: 島 亜沙美(SHIMA, Asami); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 谷尾 俊幸(TANIO, Toshiyuki); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP). 高橋 雄二(TAKAHASHI,

Yuji); 〒7691602 香川県観音寺市豊浜町和田浜 1 5 3 1-7 ユニ・チャーム株式会社テクニカルセンター内 Kagawa (JP).

(74) 代理人: 一色国際特許業務法人(ISSHIKI & CO.); 〒1050004 東京都港区新橋 2 丁目 1 2 番 7 号 労金新橋ビル Tokyo (JP).

(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユー

[続葉有]

(54) Title: ABSORBENT ARTICLE

(54) 発明の名称: 吸収性物品

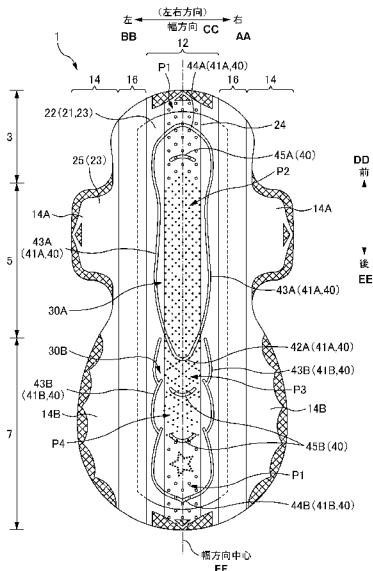


Fig. 1
AA Right
BB Left
CC Width direction (left-right direction)
DD Front
EE Rear
FF Width-direction center

(57) Abstract: The present invention is an absorbent article that comprises an absorption body and a cover sheet that is arranged further to a skin side than the absorption body. Joining grooves are formed so as to compress and join the cover sheet and the absorption body in the thickness direction. The joining grooves include a transverse groove that crosses the width-direction center of the absorbent article in the width direction and that separates a central region that faces an excretion orifice from a rear region that is positioned further to the rear than the central region. An embossed pattern that is shallower than the joining grooves is formed on the surface of the central region and the surface of the rear region. The embossed pattern on the central region and the embossed pattern on the rear region are different.

(57) 要約: 本発明は、吸収体と、前記吸収体よりも肌側に配置されたカバーシートと、を備えた吸収性物品である。前記カバーシートと前記吸収体とを厚み方向に圧縮して接合する接合溝が形成されており、前記接合溝は、前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する横断溝であって、排泄口に対向する中央領域と、前記中央領域よりも後側に位置する後方領域とを区分けする横断溝を有している。前記中央領域の表面及び前記後方領域の表面には前記接合溝よりも浅いエンボスパターンが形成されており、前記中央領域のエンボスパターンと、前記後方領域のエンボスパターンとが異なる。



ロシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨー
ロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE,
ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV,
MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK,
SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ,
GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称： 吸収性物品

技術分野

[0001] 本発明は、吸収性物品に関する。

背景技術

[0002] 人体から排泄される経血などの液体（体液）を吸収する吸収性物品の一例として、生理用ナプキンが挙げられる。このような吸収性物品は、液体を吸収する吸収体と、吸収体よりも肌側に配置されたカバーシートとを備えている。このような吸収性物品には、カバーシートと吸収体とを厚み方向に圧縮して接合する接合溝を形成したものや、カバーシートにエンボスパターンを形成したものなどが知られている（例えば、特許文献 1、2 参照）。

先行技術文献

特許文献

[0003] 特許文献1：特開平 2 0 0 5 - 1 7 7 0 7 8 号公報

特許文献2：特開平 2 0 0 7 - 1 4 6 3 5 号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0004] 吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する接合溝（横断溝）を形成し、排泄口に対向する中央領域と、中央領域よりも後側に位置する後方領域とを区分けすることがある。中央領域と後方領域の両方にエンボスパターンを形成する場合には、共通のエンボス加工を施すことによって、中央領域と後方領域に共通のエンボスパターンが形成されることがある。

[0005] しかし、中央領域の表面及び後方領域の表面に共通のエンボスパターンを形成してしまうと、エンボスパターンよりも深く視認性の高い接合溝によって中央領域と後方領域が区分けられているにも関わらず、着用者が中央領域と後方領域を識別しにくくなり、この結果、着用者が中央領域と後方領域との機能の違いを把握しにくくなるおそれがある。

[0006] 本発明は、接合溝（横断溝）で分けられた中央領域と後方領域の両方にエンボスパターンを形成する際に、中央領域と後方領域とを識別しやすい吸収性物品を提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

[0007] 上記目的を達成するための主たる発明は、
吸収体と、
前記吸収体よりも肌側に配置されたカバーシートと、
を備えた吸収性物品であって、
前記カバーシートと前記吸収体とを厚み方向に圧縮して接合する接合溝が形成されており、
前記接合溝は、前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する横断溝であって、排泄口に対向する中央領域と、前記中央領域よりも後側に位置する後方領域とを分けする横断溝を有しており、
前記中央領域の表面及び前記後方領域の表面には前記接合溝よりも浅いエンボスパターンが形成されており、
前記中央領域のエンボスパターンと、前記後方領域のエンボスパターンとが異なる
ことを特徴とする吸収性物品である。

[0008] 本発明の他の特徴については、本明細書及び添付図面の記載により明らかにする。

発明の効果

[0009] 本発明によれば、接合溝によって分けられエンボスパターンの形成された中央領域と後方領域を識別しやすくなる。

図面の簡単な説明

[0010] [図1]図1は、吸収性物品1を表面側から見た展開平面図である。

[図2]図2は、吸収性物品1の分解説明図である。

[図3]図3は、吸収性物品1の斜視図である。

[図4]図4は、吸収体21におけるパルプの坪量の説明図である。

[図5]図5は、接合溝40の近傍の断面図である。

[図6]図6は、接合溝40の説明図である。

[図7]図7は、接合溝40と吸収体21との位置関係の説明図である。

[図8]図8A及び図8Bは、一对の第2側溝43Bの外側から内側に力を受けたときの参考説明図である。

[図9]図9は、吸収性物品1の幅方向中心を幅方向に横断する複数の接合溝40の間隔の説明図である。

[図10]図10は、吸収性物品1の折り線部の説明図である。

[図11]図11A及び図11Bは、後方領域30BのエンボスパターンPの説明図である。

[図12]図12Aは、第2実施形態の説明図である。図12Bは、第3実施形態の説明図である。図12Cは、第4実施形態の説明図である。

発明を実施するための形態

[0011] 本明細書及び添付図面の記載により、少なくとも以下の事項が明らかとなる。

[0012] 吸収体と、前記吸収体よりも肌側に配置されたカバーシートと、を備えた吸収性物品であって、前記カバーシートと前記吸収体とを厚み方向に圧縮して接合する接合溝が形成されており、前記接合溝は、前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する横断溝であって、排泄口に対向する中央領域と、前記中央領域よりも後側に位置する後方領域とを区分けする横断溝を有しており、前記中央領域の表面及び前記後方領域の表面には前記接合溝よりも浅いエンボスパターンが形成されており、前記中央領域のエンボスパターンと、前記後方領域のエンボスパターンとが異なることを特徴とする吸収性物品が明らかとなる。

このような吸収性物品によれば、接合溝によって区分けされエンボスパターンの形成された中央領域と後方領域を識別しやすくなる。

[0013] 前記吸収性物品の前端側のエンボスパターンと、前記吸収性物品の後端側のエンボスパターンとが共通であることが望ましい。これにより、製造が容

易になる。

[0014] 前記中央領域のエンボスパターンは、前記後方領域のエンボスパターンよりも、エンボス痕が密に形成されていることが望ましい。これにより、中央領域における体液の吸収性が向上するとともに、中央領域が視認されやすくなる。また、中央領域の吸収機能が高いことや、後方領域が低剛性であり臀部の形状に合わせて変形しやすいことを、着用者に認識させることができる。

[0015] 前記接合溝は、前記横断溝を含みつつ前記中央領域を囲む第1接合溝と、前記後方領域を区画するU字状の第2接合溝とを有しており、U字状の前記第2接合溝の端部と前記第1接合溝との間には、前記接合溝が形成されていないことが望ましい。これにより、中央領域と後方領域の変形が連動しないため、液漏れを抑制できる。

[0016] 前記吸収体は、周囲の領域よりも坪量の低い低部を有しており、前記横断溝は、前記低部に形成されていることが望ましい。これにより、吸収体の圧縮による剛性の増加を抑制でき、吸収性物品のフィット性が向上する。

[0017] 前記カバーシートよりも肌側に表面シートが配置されており、前記表面シートに前記エンボスパターンが形成されていることが望ましい。これにより、エンボスパターンが明瞭になる。

[0018] 前記中央領域を前記幅方向から挟む一对の前記接合溝の内側に、前記表面シートが配置されていることが望ましい。これにより、中央領域の視認性が向上する。

[0019] 前記接合溝は、前記横断溝よりも後側において前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する後方横断溝であって、表面シート、前記カバーシート及び前記吸収体を厚み方向に圧縮して接合する後方横断溝を有しており、前記後方横断溝が、前記表面シートの前記幅方向の内側に配置されており、前記後方横断溝の端部より外側の前記表面シートには、前記接合溝が形成されていないことが望ましい。これにより、クッション性の高い領域が前後方向に連続し、着心地が良くなる。

- [0020] 前記接合溝は、前記横断溝よりも後側において前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する後方横断溝を少なくとも2つ有しており、前記横断溝と前記後方横断溝との間の前記エンボスパターンと、2つの前記後方横断溝の間の前記エンボスパターンとが異なることが望ましい。これにより、前側の後方横断溝が視認されやすくなる。
- [0021] 前記接合溝は、前記横断溝よりも後側において前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する後方横断溝を有しており、前記後方横断溝の曲率半径は、前記横断溝の曲率半径よりも大きいことが望ましい。これにより、着用者の臀部に沿って後方領域が変形しやすくなり、吸収性物品のフィット性が向上する。
- [0022] 前記接合溝は、前記横断溝よりも後側において前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する後方横断溝を有しており、前記後方横断溝が、前記吸収性物品の2つの折り線部の間に位置することが望ましい。これにより、着用者の臀部に沿って後方領域が変形しやすくなり、吸収性物品のフィット性が向上する。
- [0023] 前記エンボスパターンが変化する境界領域と、前記吸収性物品の折り線部とが重複することが望ましい。これにより、エンボスパターンの変化を着用者に認識させやすくなる。
- [0024] 前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する複数の接合溝の前後方向の間隔が、前記中央領域に近いほど狭いことが望ましい。これにより、着用者の臀部に沿って後方領域が変形しやすくなる。
- [0025] 前記後方領域に形成される前記エンボスパターンは、前記吸収性物品の幅方向中心に並ぶ複数の菱形模様を形成しており、前記菱形模様の前記幅方向の対角線は、前後方向の対角線よりも長いことが望ましい。これにより、体液の後側への流れが堰き止められるイメージが増幅され、着用者に安心感を与えることができる。
- [0026] 前記後方領域に形成される前記エンボスパターンは、前記吸収性物品の幅方向中心に並ぶ複数の菱形模様を形成しており、前記複数の菱形模様は、後

側ほど大きく形成されていることが望ましい。これにより、後方領域が低剛性であり臀部の形状に合わせて変形しやすいイメージを着用者に与えることができ、着用者に安心感を与えることができる。

[0027] === 第 1 実施形態 ===

＜吸収性物品 1 の全体構成＞

図 1 は、吸収性物品 1 を表面側から見た展開平面図である。図 2 は、吸収性物品 1 の分解説明図である。図 3 は、吸収性物品 1 の斜視図である。

[0028] 吸収性物品 1 は、着用者の排泄口から排出された体液（例えば経血）を吸収し保持する物品である。本実施形態では、吸収性物品 1 は、夜用の生理用ナプキンである。但し、吸収性物品 1 は、昼用の生理用ナプキンでも良いし、紙おむつや失禁パッド等でも良い。

[0029] 以下の説明では、図 1 に示すように、前後方向及び左右方向を定義する。すなわち、長尺状の吸収性物品 1 の長手方向を「前後方向」とし、着用者の前側に位置する方を「前」とし、逆側を「後」とする。長尺状の吸収性物品 1 の幅方向を「幅方向」又は「左右方向」とし、着用者の右側に位置する方を「右」とし、逆側を「左」とする。また、図 2 に示すように、前後方向及び幅方向（左右方向）に直交する方向を「厚み方向」とし、吸収性物品 1 の着用者の肌側を「上」とし、逆側を「下」とする。また、吸収性物品 1 の着用者の肌側の面（肌に接触する面）を「表面」と呼び、逆側の面を「裏面」と呼ぶことがある。厚み方向は、表面及び裏面の法線方向となる。

[0030] 吸収性物品 1 は、図 1 に示すように、前部 3 と、股下部 5 と、後部 7 とを有する。前部 3 は、着用者の前側に位置することになる部分である。後部 7 は、着用者の後側（臀部側、背側）に位置することになる部分である。股下部 5 は、前部 3 と後部 7 との間に位置することになる部分である。

[0031] また、吸収性物品 1 は、中央帯状領域 12 と、側縁部 14 と、防漏壁 16 とを有する。

中央帯状領域 12 は、吸収性物品 1 の幅方向中央部に位置する帯状の領域であり、前部 3、股下部 5 及び後部 7 にわたって前後方向に沿って構成され

ている。中央帯状領域 12 は、液体を吸収し保持する部位である。中央帯状領域 12 は、吸収体 21、カバーシート 22、裏面シート 23 及び表面シート 24 を有する（図 2 参照）。中央帯状領域 12 には、後述するように、中央領域 30A 及び後方領域 30B や、接合溝 40 やエンボスパターン P（P1～P4）が形成されている。

側縁部 14 は、吸収性物品 1 の幅方向の縁の部位であり、前部 3、股下部 5 及び後部 7 にわたって構成されている。側縁部 14 は、ウイング部 14A を有する。ウイング部 14A は、下着に巻き込んで下着に吸収性物品 1 を固定する部位であり、股下部 5 の左右両側から外側にそれぞれ延出して形成されている。吸収性物品 1 は後部 7 に後方ウイング部 14B を有するが、吸収性物品 1 が後方ウイング部 14B を備えていなくても良い。ウイング部 14A を含む側縁部 14 は、サイドシート 25 及び裏面シート 23 を有する（図 2 参照）。

防漏壁 16 は、隙間からの液漏れを防ぐ部位（ギャザー）である。防漏壁 16 は、前後方向に沿って中央帯状領域 12 の両縁に形成されている。防漏壁 16 には前後方向に沿って弾性部材 16A が配置されており、弾性部材 16A の伸縮性によってギャザーが構成される（図 3 参照）。防漏壁 16 は、サイドシート 25 の内側の部位から構成されている（図 2 参照）。

[0032] 吸収性物品 1 は、図 2 に示すように、吸収体 21、カバーシート 22、裏面シート 23、表面シート 24 及びサイドシート 25 を有する。

[0033] 吸収体 21 は、液体を吸収し保持する部材である。吸収体 21 は、体液を吸収する吸収性材料（例えばパルプ、高吸収ポリマーなど）を包装部材（例えばティッシュペーパー）で包むことによって形成されている。

図 4 は、吸収体 21 におけるパルプの坪量の説明図である。吸収体 21 は、低部 21A を有する。低部 21A は、吸収体 21 におけるパルプの坪量の最も少ない部位である。低部 21A は、周囲の領域よりも坪量の低い領域となる。

[0034] カバーシート 22 は、吸収体 21 よりも肌側（上側）に配置された液透過

性のシート部材である（図2参照）。ここでは、カバーシート22は、トップシート22A及びセカンドシート22Bから構成されているが、1枚のシート部材で構成しても良い。カバーシート22は、例えば不織布から構成される。カバーシート22は、前部3、股下部5及び後部7にわたって前後方向に沿って配置されており、少なくとも吸収体21の上側を覆い、中央帯状領域12を構成する。

カバーシート22及び吸収体21は、厚み方向に圧縮（圧搾）して形成された接合溝40によって、接合されている。接合溝40については、後述する。

[0035] 裏面シート23は、吸収体21よりも下着側（下側）に配置された液不透過性のシート部材である。裏面シート23は、例えば不織布から構成される。裏面シート23は、吸収性物品1の裏面を構成し、中央帯状領域12及び側縁部14を構成する。裏面シート23の下面（下着と接触する面）には、粘着剤（不図示）が塗布されている。吸収性物品1の使用前には、裏面シート23の下側には、粘着剤を保護する剥離シート（不図示）が設けられている。カバーシート22と裏面シート23との間には、吸収体21が配置されている。

[0036] 表面シート24は、カバーシート22よりも肌側に配置された液透過性のシート部材である。表面シート24は、中央帯状領域12の幅方向中央部に位置する帯状の部材であり、前部3、股下部5及び後部7にわたって前後方向に沿って構成されている。表面シート24は、カバーシート22に接合されており、表面シート24及びカバーシート22にはエンボス加工が施され、エンボスパターンP（P1～P4）が形成されている。また、表面シート24は、接合溝40によって、カバーシート22及び吸収体21に接合されている。エンボスパターンPや接合溝40については、後述する。

[0037] サイドシート25は、カバーシート22の左右両側に位置するシート状の部材である。サイドシート25は、ウイング部14Aを含む側縁部14と防漏壁16とを構成する。なお、カバーシート22、裏面シート23及びサイ

ドシート 25 の周縁が接合されることによって、吸収体 21 が内封されている。

[0038] <接合溝 40（圧搾溝）について>

図 5 は、接合溝 40 の近傍の断面図である。

接合溝 40 は、カバーシート 22 と吸収体 21 とを厚み方向に圧縮（圧搾）して接合する溝状の部位である。接合溝 40 は、圧搾溝やヒンジ部などと称されることもある。

[0039] 接合溝 40 の近傍では、吸収体 21 が密になり、毛管現象により液体の吸収性・保持性が高い。このため、吸収体 21 に吸収された体液が接合溝 40 を横切るように流れることは抑制される。一方、接合溝 40 の近傍では、吸収体 21 が圧縮されているため、剛性が高い。このため、吸収体 21 の設けられた部位のクッション性は、接合溝 40 のある部位よりも、接合溝 40 の無い部位の方が高い。なお、表面シート 24 のある位置に接合溝 40 が形成されると、カバーシート 22 及び吸収体 21 だけでなく表面シート 24 も圧縮されているため、剛性が高くなる。

接合溝 40 の形成部位では剛性が高いため、接合溝 40 の溝方向に沿って力がかかる場合には、吸収性物品 1 は変形しにくい。一方、接合溝 40 に垂直な方向から接合溝 40 に向かう力がかかると、接合溝 40 を支点として吸収性物品 1 が折れ曲がりやすくなる。

[0040] 接合溝 40 は、吸収体 21 を厚み方向に圧縮して形成されるため、後述するエンボスパターン P よりも深い凹部（溝）になる。このため、接合溝 40 は、エンボスパターン P よりも視認されやすい。

[0041] 図 6 は、接合溝 40 の説明図である。図 7 は、接合溝 40 と吸収体 21 との位置関係の説明図である。以下、図 6 及び図 7 とともに図 1 も参照しながら、接合溝 40 について説明する。

[0042] 接合溝 40 は、横断溝 42 A を有している。横断溝 42 A は、吸収性物品 1 の幅方向中心を幅方向に横断する接合溝 40 であり、中央領域 30 A と後方領域 30 B とを区分けしている。中央領域 30 A 及び後方領域 30 B は、

どちらも中央帯状領域 1 2 の幅方向中央部に位置し、前後方向に延びた領域である。中央領域 3 0 A は、横断溝 4 2 A の前側の領域であり、少なくとも一部が排泄口（例えば膣口）に対向する領域であり、排泄口から排泄される体液（例えば経血）を吸収する領域である。後方領域 3 0 B は、横断溝 4 2 A の後側の領域であり、中央領域 3 0 A よりも後側に位置する。後方領域 3 0 B は、着用者の臀部に対向する領域であり、中央領域 3 0 A よりも後方で体液を吸収する領域である。

[0043] 中央領域 3 0 A は、多量の体液を吸収し保持する機能が求められる領域である。一方、後方領域 3 0 B は、中央領域 3 0 A ほどの体液の吸収性や保持性は要求されないが、臀部と対向する位置で体液を吸収する機能が求められるため、着用者の臀部の形状に適合する機能が求められる領域である（臀部とのフィット性が求められる領域である）。なお、後方領域 3 0 B は、着用者の臀部に沿って変形することによって、体液が着用者の臀裂（左右の臀部の中央の縦溝）を伝って中央領域 3 0 A よりも後方に流れたときに、その体液を吸収できることが望ましい。

[0044] 横断溝 4 2 A は、吸収体 2 1 の低部 2 1 A に形成されている（図 7 参照）。低部 2 1 A は、周囲の領域よりも坪量の低い領域であるため、低部 2 1 A に横断溝 4 2 A を形成すれば、吸収体 2 1 の圧縮による剛性の増加を抑制でき、吸収性物品 1 のフィット性（肌との接触性）が向上する。特に、横断溝 4 2 A は中央領域 3 0 A と後方領域 3 0 B の境界に形成されるため、横断溝 4 2 A の近傍における剛性を抑制することによって、中央領域 3 0 A 及び後方領域 3 0 B が肌と接触しやすくなり、液体の吸収性が向上する。また、本実施形態のように幅方向中心に表面シート 2 4 がある場合、横断溝 4 2 A によって表面シート 2 4 も圧縮されて剛性が増加しやすいため、吸収体 2 1 の低部 2 1 A に横断溝 4 2 A を形成することは特に有利である。

[0045] 接合溝 4 0 は、第 1 接合溝 4 1 A 及び第 2 接合溝 4 1 B を有する。中央領域 3 0 A と後方領域 3 0 B とを区分けする横断溝 4 2 A は、第 1 接合溝 4 1 A に含まれている。

- [0046] 第1接合溝41Aは、排泄口に対向する中央領域30Aを区画する接合溝40である。ここでは、第1接合溝41Aは、中央領域30Aを包囲するように形成されている。これにより、排泄口から排泄された体液（例えば経血）が中央領域30Aの外部に漏洩しにくくなる。
- [0047] 第1接合溝41Aは、上記の横断溝42Aとともに、一对の第1側溝43Aと、前端横断溝44Aとを有する。第1側溝43Aは、中央領域30Aの左右の縁を区画する接合溝40であり、一对の第1側溝43Aは、中央領域30Aを幅方向から挟む接合溝40である。第1側溝43Aは、前後方向に沿って形成されている。一对の第1側溝43Aの後端は横断溝42Aと連結している。これにより、中央領域30Aから後側へ体液が漏洩しにくくなる。前端横断溝44Aは、中央領域30Aの前縁を区画する接合溝40であり、吸収性物品1の幅方向中心を幅方向に横断する接合溝40である。一对の第1側溝43Aの前端と前端横断溝44Aとが連結しているため、中央領域30Aから前側へ体液が漏洩しにくくなる。
- [0048] 第1接合溝41Aの内側（中央領域30A）には、更に前方横断溝45Aが形成されている。前方横断溝45Aは、中央領域30Aの前方に設けられ、吸収性物品1の幅方向中心を幅方向に横断する接合溝40である。前方横断溝45Aは、前端横断溝44Aとは異なり、第1側溝43Aとは連結していない。前方横断溝45Aが設けられることによって、体液が前端横断溝44Aまで達しにくくなるため、中央領域30Aから前側へ体液が漏洩しにくくなる。
- [0049] 第2接合溝41Bは、中央領域30Aよりも後側に位置する後方領域30Bを区画するU字状の接合溝40である。U字状の第2接合溝41Bの左右の端部（前端）は、第1接合溝41Aの横断溝42Aを左右から挟むように配置されている。これにより、横断溝42Aを越えて後側に流れた液体は、U字状の第2接合溝41Bの左右の端部の間から後方領域30Bに入り込むため、第2接合溝41Bによって外部に漏洩しにくくなる。
- [0050] U字形状の第2接合溝41Bの左右の端部（第2側溝43Bの前端）と第

1 接合溝 4 1 A との間には、接合溝 4 0 が形成されていない。このため、第 1 接合溝 4 1 A と第 2 接合溝 4 1 B との間の剛性が低い状態になる。これにより、吸収性物品 1 の中央領域 3 0 A 及び後方領域 3 0 B の変形が連動しないため、吸収性物品 1 の中央領域 3 0 A 及び後方領域 3 0 B が、それぞれ独立して、着用者の臀部の形状や動きに合わせて変形できるので、液漏れを抑制できる。

[0051] 第 2 接合溝 4 1 B は、一对の第 2 側溝 4 3 B と、後端横断溝 4 4 B とを有する。第 2 側溝 4 3 B は、後方領域 3 0 B の左右の縁を区画する接合溝 4 0 であり、一对の第 2 側溝 4 3 B は、後方領域 3 0 B を幅方向から挟む接合溝 4 0 である。第 2 側溝 4 3 B は、前後方向に沿って形成されている。後端横断溝 4 4 B は、後方領域 3 0 B の後縁を区画する接合溝 4 0 であり、吸収性物品 1 の幅方向中心を幅方向に横断する接合溝 4 0 である。一对の第 2 側溝 4 3 B の後端は後端横断溝 4 4 B と連結している。これにより、後方領域 3 0 B から後側へ体液が漏洩しにくくなる。

[0052] 一对の第 2 側溝 4 3 B の内側（後方領域 3 0 B）には、更に 2 つの後方横断溝 4 5 B が形成されている。後方横断溝 4 5 B は、横断溝 4 2 A よりも後側において吸収性物品 1 の幅方向中心を幅方向に横断する接合溝 4 0 である。後方横断溝 4 5 B は、後端横断溝 4 4 B とは異なり、第 2 側溝 4 3 B とは連結していない。後方横断溝 4 5 B が設けられることによって、体液が後端横断溝 4 4 B まで達しにくくなるため、後方領域 3 0 B から後側へ体液が漏洩しにくくなる。

[0053] 一对の第 2 側溝 4 3 B には左右方向に凹凸が形成されており、この結果、一对の第 2 側溝 4 3 B の間隔に広狭が形成され、後方領域 3 0 B の幅に広狭が形成されている。そして、一对の第 2 側溝 4 3 B の間隔の狭い部位の近傍（間隔の広い部位よりも狭い部位の近く）に、後方横断溝 4 5 B が形成されている。この理由を次に説明する。

[0054] 図 8 A 及び図 8 B は、一对の第 2 側溝 4 3 B の外側から内側に力を受けたときの参考説明図である。第 2 側溝 4 3 B は、図中の紙面垂直方向（前後方

向)に沿って形成されている。

吸収性物品 1 は、着用者の股下や左右の臀部により、図 8 A の矢印に示すように左右両側から内側に向かう力を受けやすい。このような力を受けると、第 2 側溝 4 3 B を支点として第 2 側溝 4 3 B の内側と外側との間が折れ曲がる。この結果、図 8 B に示すように後方領域 3 0 B が上に盛り上がり、第 2 側溝 4 3 B の上側（肌側）に深い谷間が形成されるおそれがある（図 8 B の矢印参照）。このような深い谷間が形成されてしまうと、着用者の臀部との間に大きな隙間が形成されてしまい、液漏れの原因になるおそれがある。

特に本実施形態のように一对の第 2 側溝 4 3 B の間隔に広狭がある場合には、一对の第 2 側溝 4 3 B の間隔の狭い部分に力が集中する。このため、一对の第 2 側溝 4 3 B の間隔の狭い部分では、特に深い谷間が形成されやすい。

そこで、本実施形態では、一对の第 2 側溝 4 3 B の間隔の狭い部位の近傍（間隔の広い部位よりも狭い部位の近く）に後方横断溝 4 5 B を形成している。後方横断溝 4 5 B は、吸収性物品 1 の幅方向中心を幅方向に横断して形成されているため、左右両側から内側に向かう力（後方横断溝 4 5 B の溝方向に沿った力）を受けても、後方横断溝 4 5 B の剛性によって後方領域 3 0 B が上に盛り上がるように変形することが抑制される。これにより、図 8 B の矢印に示すような深い谷間が形成されにくくなり、液漏れを抑制できる。

[0055] 後方横断溝 4 5 B は、表面シート 2 4 の幅方向の内側に配置されている。また、後方横断溝 4 5 B は第 2 側溝 4 3 B とは連結していないため、後方横断溝 4 5 B の左右の端部より外側の表面シート 2 4 には接合溝 4 0 が形成されていない。このため、本実施形態では、後方横断溝 4 5 B と第 2 側溝 4 3 B との間には、圧縮されていない表面シート 2 4（及び吸収体 2 1）が残っている。これにより、後方横断溝 4 5 B と第 2 側溝 4 3 B との間にクッション性の高い部位が残るため、この部位を含むクッション性の高い領域が前後方向に連続し、着心地が良くなる。なお、仮に後方横断溝 4 5 B が第 2 側溝 4 3 B と連結していると、剛性が高くクッション性の低い後方横断溝 4 5 B

によってクッション性の高い領域が分割されてしまうため、後方横断溝 4 5 B の前後で感触の差が大きくなり、着心地が悪くなってしまう。

[0056] 後方横断溝 4 5 B 及び横断溝 4 2 A は、いずれも吸収性物品 1 の幅方向中心において後側に凸に湾曲している。横断溝 4 2 A は、U 字状の第 2 接合溝 4 1 B の左右の端部（前端）の間に挟まれて配置されるため、湾曲が急である。これに対し、後方横断溝 4 5 B は、横断溝 4 2 A よりも、湾曲が緩やかである。つまり、本実施形態では、後方横断溝 4 5 B の曲率半径は、横断溝 4 2 A の曲率半径よりも大きい。これにより、後方横断溝 4 5 B を支点として吸収性物品 1 が折れ曲がりやすくなるため、着用者の臀部に沿って後方領域 3 0 B が変形しやすくなり、吸収性物品 1 のフィット性が向上する。

[0057] 図 9 は、吸収性物品 1 の幅方向中心を幅方向に横断する複数の接合溝 4 0（横断溝 4 2 A、2 つの後方横断溝 4 5 B 及び後端横断溝 4 4 B）の間隔の説明図である。横断溝 4 2 A と前側の後方横断溝 4 5 B との間隔を L_1 とし、2 つの後方横断溝 4 5 B の間隔を L_2 とし、後側の後方横断溝 4 5 B と後端横断溝 4 4 B との間隔を L_3 とすると、 $L_1 < L_2 < L_3$ の関係になっている。すなわち、吸収性物品 1 の幅方向中心を幅方向に横断する複数の接合溝 4 0 の前後方向の間隔は、中央領域 3 0 A に近い前側ほど狭く、後側ほど広がっている。これにより、後方領域 3 0 B は、股下部 5（図 1 参照）に近い部位ほど、屈曲しやすくなる。一般的に、着用者の臀部は、大腿部に近い部位ほど湾曲が急であり、腰部に近い部位ほど湾曲が緩やかであるため、吸収性物品 1 の幅方向中心を幅方向に横断する接合溝 4 0 の間隔を前側ほど狭く、後側ほど広くすることによって、着用者の臀部に沿って後方領域 3 0 B が変形しやすくなる。

[0058] 図 1 0 は、吸収性物品 1 の折り線部の説明図である。

折り線部とは、吸収性物品 1 の折れ曲がった領域である。吸収性物品 1 は厚みがあるため、折り線部は、前後方向に幅を持つ領域になるが、図中には、折り線部の中心位置が示されている。ここでは、3 つの折り線部を前側から順に「前方折り線部 5 1」、「中央折り線部 5 2」及び「後方折り線部 5

3」と呼ぶ。

吸収性物品 1 は、幅方向の複数の折り線部で谷折りされることによって、折り畳まれた状態で包装されている。図 3 に示すように、吸収性物品 1 を包装から解いて開いても、折り線部における屈曲は残留する。

[0059] 本実施形態では、2つの後方横断溝 4 5 B のうちの前側の後方横断溝 4 5 B が、中央折り線部 5 2 と後方折り線部 5 3 との間に位置している。このため、図 3 に示すように、吸収性物品 1 を開いたとき、中央折り線部 5 2 及び後方折り線部 5 3 の屈曲部分の間の平板状の領域に、前側の後方横断溝 4 5 B が位置する。これにより、吸収性物品 1 が着用されるとき、中央折り線部 5 2 及び後方折り線部 5 3 の屈曲部分の間の平板状の領域が着用者の臀部に接触し、臀部からの力によって後方横断溝 4 5 B を支点として後方横断溝 4 5 B の前後が折れ曲がり、後方領域 3 0 B が着用者の臀部に沿って変形することになる。仮に中央折り線部 5 2 及び後方折り線部 5 3 の間に後方横断溝 4 5 B が無い場合、中央折り線部 5 2 及び後方折り線部 5 3 の屈曲部分の間の平板状の領域が曲がりにくくなり、後方領域 3 0 B が着用者の臀部に沿って変形しにくくなる。したがって、前側の後方横断溝 4 5 B が中央折り線部 5 2 と後方折り線部 5 3 との間に位置することによって、着用者の臀部に沿って後方領域 3 0 B が変形しやすくなり、この結果、吸収性物品 1 のフィット性が向上する。

[0060] なお、中央折り線部 5 2 と後方折り線部 5 3 との間の後方横断溝 4 5 B は 1 つであるが、複数にしても良い。但し、後方横断溝 4 5 B の数が増え過ぎると吸収性物品 1 の剛性が高くなってしまうため、中央折り線部 5 2 と後方折り線部 5 3 との間隔に応じて後方横断溝 4 5 B は 1 ～ 3 箇所程度にすることが望ましい。

[0061] <エンボスパターン P について>

エンボスパターン P (図 1 の P 1 ～ P 4 参照) は、エンボス加工によって形成されたエンボス痕のパターンである。本実施形態では、エンボスパターン P は、表面シート 2 4 及びカバーシート 2 2 にエンボス加工を施すことに

よって、形成されている（図1、図2参照）。接合溝40は吸収体21を厚み方向に圧縮（圧搾）させて形成されるのに対し、エンボスパターンPは吸収体21を含まずにエンボス加工により形成されるため（図2参照）、エンボスパターンPは、接合溝40よりも浅い加工痕となる。

[0062] エンボスパターンPの形成された領域では、吸収体21上の嵩（表面シート24及びカバーシート22の厚み）が狭まるため、体液が吸収体21に浸透しやすくなるとともに、エンボス痕では圧縮により密度が増すため、賦形性が向上する。このため、中央領域30A及び後方領域30Bの両方にエンボスパターンPを形成することが望ましい。

但し、中央領域30Aの表面及び後方領域30Bの表面に共通のエンボスパターンPを形成してしまうと、エンボスパターンPよりも深い接合溝40（エンボスパターンPよりも視認性の高い接合溝40）によって中央領域30Aと後方領域30Bが区別られているにも関わらず、着用者が中央領域30Aと後方領域30Bとを識別しにくくなってしまう。

そこで、本実施形態では、中央領域30AのエンボスパターンP（具体的には、中央パターンP2）と後方領域30BのエンボスパターンP（具体的には、第1後方パターンP3及び第2後方パターンP4）とを異ならせている。これにより、中央領域30Aの表面及び後方領域30Bの表面に共通のエンボスパターンPを形成した場合と比べて、中央領域30Aと後方領域30Bとを識別しやすくなり、着用者は、中央領域30Aと後方領域30Bとの機能の違いを把握した上で吸収性物品1を着用しやすくなる。

[0063] なお、エンボス痕の配置が異なる場合、エンボスパターンPが異なることになる。また、エンボス痕の形状や大きさが異なる場合も、エンボスパターンPが異なることになる。本実施形態では、エンボス痕がドット形状であるが、エンボス痕が他の形状（例えば線形状）であっても良い。

[0064] 図1に示すように、エンボスパターンPは、前から順に、端部パターンP1、中央パターンP2、第1後方パターンP3、第2後方パターンP4、端部パターンP1を有する。各パターンの間には、パターンが徐々に変化する

境界領域が存在する。

[0065] 端部パターン P 1 は、吸収性物品 1 の前端側及び後端側に形成されるエンボスパターン P である。吸収性物品 1 の前端側のエンボスパターン P と、後側のエンボスパターン P とが共通である。これにより、基材の前後方向に連続的に吸収性物品 1 を形成しつつ、吸収性物品 1 の外縁をカットして吸収性物品 1 を製造する際に、基材上で隣接する吸収性物品 1 の端部パターン P 1 を共通のエンボス加工によって形成できるため、製造が容易になる。

[0066] 中央パターン P 2 は、主に中央領域 30 A に形成されるエンボスパターン P である。中央パターン P 2 は、他のエンボスパターン P よりも、エンボス痕の数が密に形成されている。ここで、「エンボス痕の数が密」とは、単位面積当たりのエンボス痕の数が多いうことを意味する。中央パターン P 2 のエンボス痕が密に形成されることによって、中央領域 30 A に形成されるエンボスパターン P は、後方領域 30 B のエンボスパターン P よりもエンボス痕（エンボス）の数が密に形成されることになる。

[0067] 中央領域 30 A のエンボス痕の数が密になることによって、中央領域 30 A における吸収体 21 上の嵩（表面シート 24 及びカバーシート 22 の厚み）が狭まり、中央領域 30 A における体液の吸収性が向上する。また、中央領域 30 A のエンボス痕の数が密になることによって、中央領域 30 A のエンボスパターン P が視認されやすくなり、中央領域 30 A が視認されやすくなる。また、中央領域 30 A のエンボス痕の数が密になることによって、中央領域 30 A の吸収機能が高いことを着用者に認識させることができるため、中央領域 30 A に排泄口を対向させるように着用者を誘導できる。なお、2つのエンボスパターン P を比較したときに、仮に単位面積当たりのエンボス痕の「面積」が同じ場合であっても、単位面積当たりのエンボス痕の「数」の多い方が、体液の吸収性が高く、エンボスパターン P の視認性が良い。

逆に、後方領域 30 B のエンボスパターン P は、中央領域 30 A のエンボスパターン P よりもエンボス痕（エンボス）の数が粗になる。これにより、後方領域 30 B の表面シート 24 及びカバーシート 22 の剛性が低くなるた

め、後方領域 30B が、着用者の臀部の形状に合わせて変形しやすくなる。
また、後方領域 30B のエンボス痕の数が粗になることによって、後方領域 30B が低剛性であり臀部の形状に合わせて変形しやすいことを着用者に認識させることができる。

[0068] 第 1 後方パターン P3 は、横断溝 42A と、前側の後方横断溝 45B との間に形成されるエンボスパターン P である。第 2 後方パターン P4 は、2 つの後方横断溝 45B の間に形成されるエンボスパターン P である。第 1 後方パターン P3 と第 2 後方パターン P4 は、異なるエンボスパターン P になっている。これにより、第 1 後方パターン P3 と第 2 後方パターン P4 の間にある前側の後方横断溝 45B が視認されやすくなる。また、前側の後方横断溝 45B が視認されることによって、着用者は、中央領域 30A の後側の後方領域 30B に機能の異なる部位が存在することを認識できるので、後漏れの不安を低減させることができ、着用者に安心感を与えることができる。

[0069] 加えて、第 2 後方パターン P4 は第 1 後方パターン P3 よりもエンボス痕が粗に形成されている。つまり、中央領域 30A から後側の領域ほど、エンボスパターン P のエンボス痕が徐々に粗になる。このようにエンボスパターン P が形成されていることを着用者が視認することによって、後方領域 30B が低剛性であり臀部の形状に合わせて変形しやすいことを着用者に認識させやすくなる。

[0070] 本実施形態では、カバーシート 22 よりも肌側に表面シート 24 が配置されており、表面シート 24 にエンボスパターン P が形成されている。表面シート 24 上にエンボス痕を形成することによって、エンボス痕の深さが増し、陰影による立体感が視認されやすくなるため、エンボスパターン P（及びエンボスパターン P の変化）が明瞭になる。仮に表面シート 24 を設けずにカバーシート 22 にエンボスパターン P を形成した場合には、エンボス痕が不明瞭になり、エンボスパターン P が視認されにくくなる。

[0071] また、本実施形態では、中央領域 30A を幅方向から挟む一対の第 1 側溝 43A（接合溝 40）の内側に、表面シート 24 が配置されている。これに

より、明瞭に視認されるエンボス痕（表面シート 24 上のエンボス痕）は、
一対の第 1 側溝 43A の内側だけに配置されるため、エンボスパターンによ
って第 1 側溝 43A（接合溝 40）の視認性が妨げられずに済むので、第 1
側溝 43A によって区画された中央領域 30A の視認性が向上する。仮に一
対の第 1 側溝 43A よりも幅広に表面シート 24 を配置して、一対の第 1 側
溝 43A よりも幅広にエンボスパターン P を形成してしまうと、エンボスパ
ターン P よりも深い第 1 側溝 43A（エンボスパターン P よりも視認性の高
い第 1 側溝 43A）によって中央領域 30A の左右の縁が区画されているに
も関わらず、第 1 側溝 43A による中央領域 30A の左右の縁が視認されに
くなくなってしまう、中央領域 30A の視認性が低下してしまう。

[0072] 図 10 に示すように、本実施形態では、中央パターン P2 と第 1 後方パ
ターン P3 との境界領域と、吸収性物品 1 の中央折り線部 52 とが重複してい
る。また、第 2 後方パターン P4 と端部パターン P1 との境界領域と、吸収
性物品 1 の後方折り線部 53 とが重複している。このように、エンボスパ
ターン P の変化する境界領域と折り線部とを重複させることによって、図 3 に
示すように折り線部の屈曲が残留するために折り線部の前後の領域が異なる
角度で見えるため、エンボスパターン P の変化を着用者に認識させやすくな
る。

[0073] 図 11A 及び図 11B は、後方領域 30B のエンボスパターン P の説明図
である。第 1 後方パターン P3 及び第 2 後方パターン P4 は、菱形模様を形
成するようにエンボス痕が配置されている（図 1 も参照）。図 11A では、
一部のエンボス痕同士を実線で結ぶことによって、吸収性物品 1 の幅方向中
心に並ぶ複数の菱形模様を実線で示している。図 11B では、菱形模様の後
側の 2 辺を実線で示している。

[0074] 図 11A に示すように、菱形模様は、幅方向の対角線が前後方向の対角線
よりも長いような形状である。このため、図 11B に示すように、菱形模様
の後側の 2 辺は、吸収性物品 1 の幅方向中心で鈍角を構成するように、形成
されている。このように、吸収性物品 1 の幅方向中心で鈍角を形成する 2 辺

を構成するようにエンボス痕を配置することによって、体液の後側への流れが堰き止められるイメージを着用者に与えることができ、着用者に安心感を与えることができる。

さらに、複数の菱形模様が前後方向に並んでいるため、図 1 1 B に示すように、鈍角で交差する 2 辺が前後方向に複数並んで配置されることになる。これにより、体液の後側への流れが堰き止められるイメージが増幅され、より大きな安心感を着用者に与えることができる。

[0075] なお、菱形模様を形成するエンボス痕は、円形状のドットではなく、菱形模様の辺方向に延びたドットである。これにより、着用者が、菱形模様を構成する辺を認識しやすくなる。

また、後側に凸に湾曲した後方横断溝 4 5 B が、菱形模様とともに吸収性物品 1 の幅方向中心に形成されている。これにより、着用者が、菱形模様を構成する 4 辺のうち、後側に凸となっている 2 辺（図 1 1 B で実線で示す 2 辺）を特に認識しやすくなる。

[0076] また、図 1 1 A に示すように、吸収性物品 1 の幅方向中心に並ぶ複数の菱形模様は、後側ほど大きく形成されている。これにより、中央領域 3 0 A から後側の領域ほどエンボスパターン P のエンボス痕が徐々に粗になっていることを、着用者が視認しやすくなる。また、これにより、後方領域 3 0 B が低剛性であり臀部の形状に合わせて変形しやすいイメージを着用者に与えることができ、着用者に安心感を与えることができる。

[0077] ===別の実施形態===

図 1 2 A は、第 2 実施形態の説明図である。第 2 実施形態では、後方領域 3 0 B に後方横断溝 4 5 B が形成されていない。

図 1 2 B は、第 3 実施形態の説明図である。第 1、第 2 実施形態では、横断溝 4 2 A が中央パターン P 2 と第 1 後方パターン P 3 との境界領域に位置していたが、第 3 実施形態では、中央パターン P 2 が後方領域 3 0 B にも形成されており、中央パターン P 2 と第 1 後方パターン P 3 との境界領域が横断溝 4 2 A よりも後側に位置する。

図 1 2 C は、第 4 実施形態の説明図である。第 4 実施形態では、第 1 実施形態とは逆に、後方領域 3 0 B のエンボスパターン P は、中央領域 3 0 A に形成されるエンボスパターン P よりもエンボス痕（エンボス）の数が密に形成されている。

[0078] 第 2 ～第 4 実施形態においても、第 1 実施形態と同様に、中央領域 3 0 A のエンボスパターン P と後方領域 3 0 B のエンボスパターン P とが異なる。このため、中央領域 3 0 A の表面及び後方領域 3 0 B の表面に共通のエンボスパターン P を形成した場合と比べて、着用者が中央領域 3 0 A と後方領域 3 0 B とを識別しやすくなる。なお、第 4 実施形態では、後方領域 3 0 B の吸収機能が高いことを着用者に認識させることができるため、着用者の臀裂（左右の臀部の中央の縦溝）を伝って後方に流れる体液を後方領域 3 0 B で吸収できることを着用者に認識させることができ、着用者に安心感を与えることができる。

[0079] なお、上記の第 1 ～第 4 実施形態のエンボスパターン P は、表面シート 2 4 及びカバーシート 2 2 に形成されていた（図 2 参照）。但し、表面シート 2 4 のみにエンボスパターン P を形成することも可能である。

また、上記の第 1 ～第 4 実施形態の吸収性物品 1 は、カバーシート 2 2 の上側（肌側）に表面シート 2 4 を備えていた。但し、吸収性物品 1 は、表面シート 2 4 を備えていなくても良い。表面シート 2 4 が無くても、中央領域 3 0 A のエンボスパターン P と後方領域 3 0 B のエンボスパターン P とが異なっていれば、中央領域 3 0 A と後方領域 3 0 B とを識別しやすくなるという効果を得ることができる。

[0080] 上記の説明では、中央領域 3 0 A は、第 1 接合溝 4 1 A によって周囲を包囲されていたが、第 2 接合溝 4 1 B のように U 字状の接合溝 4 0 によって区画されても良い。逆に、後方領域 3 0 B は、U 字状の第 2 接合溝 4 1 B によって区画されていたが、接合溝 4 0 によって周囲を包囲されても良い。中央領域 3 0 A と後方領域 3 0 B が横断溝 4 2 A によって分けられていれば、中央領域 3 0 A や後方領域 3 0 B を区画する接合溝 4 0 は、他の形状でも良

い。

[0081] ===その他===

上記の実施形態は、本発明の理解を容易にするためのものであり、本発明を限定して解釈するためのものではない。本発明は、その趣旨を逸脱することなく、変更・改良され得ると共に、本発明には、その等価物が含まれることは言うまでもない。

符号の説明

[0082] 1 吸収性物品、3 前部、5 股下部、7 後部、
 12 中央帯状領域、14 側縁部、
 14A ウイング部、14B 後方ウイング部、
 16 防漏壁、16A 弾性部材、
 21 吸収体、21A 低部、
 22 カバーシート、22A トップシート、22B セカンドシート、
 23 裏面シート、24 表面シート、25 サイドシート、
 30A 中央領域、30B 後方領域、
 40 接合溝、41A 第1接合溝、
 42A 横断溝、43A 第1側溝、
 44A 前端横断溝、45A 前方横断溝、
 41B 第2接合溝、43B 第2側溝、
 44B 後端横断溝、45B 後方横断溝、
 50 折れ線部、51 前方折れ線部、
 52 中央折れ線部、53 後方折れ線部
 P エンボスパターン、P1 端部パターン、
 P2 中央パターン、P3 第1後方パターン、
 P4 第2後方パターン

請求の範囲

- [請求項1] 吸収体と、
 前記吸収体よりも肌側に配置されたカバーシートと、
 を備えた吸収性物品であって、
 前記カバーシートと前記吸収体とを厚み方向に圧縮して接合する接合溝が形成されており、
 前記接合溝は、前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する横断溝であって、排泄口に対向する中央領域と、前記中央領域よりも後側に位置する後方領域とを区分けする横断溝を有しており、
 前記中央領域の表面及び前記後方領域の表面には前記接合溝よりも浅いエンボスパターンが形成されており、
 前記中央領域のエンボスパターンと、前記後方領域のエンボスパターンとが異なる
 ことを特徴とする吸収性物品。
- [請求項2] 請求項1に記載の吸収性物品であって、
 前記吸収性物品の前端側のエンボスパターンと、前記吸収性物品の後端側のエンボスパターンとが共通であることを特徴とする吸収性物品。
- [請求項3] 請求項1又は2に記載の吸収性物品であって、
 前記中央領域のエンボスパターンは、前記後方領域のエンボスパターンよりも、エンボス痕が密に形成されていることを特徴とする吸収性物品。
- [請求項4] 請求項1～3のいずれかに記載の吸収性物品であって、
 前記接合溝は、前記横断溝を含みつつ前記中央領域を囲む第1接合溝と、前記後方領域を区画するU字状の第2接合溝とを有しており、
 U字状の前記第2接合溝の端部と前記第1接合溝との間には、前記接合溝が形成されていない
 ことを特徴とする吸収性物品。

- [請求項5] 請求項1～4のいずれかに記載の吸収性物品であって、
前記吸収体は、周囲の領域よりも坪量の低い低部を有しており、
前記横断溝は、前記低部に形成されている
ことを特徴とする吸収性物品。
- [請求項6] 請求項1～5のいずれかに記載の吸収性物品であって、
前記カバーシートよりも肌側に表面シートが配置されており、
前記表面シートに前記エンボスパターンが形成されている
ことを特徴とする吸収性物品。
- [請求項7] 請求項6に記載の吸収性物品であって、
前記中央領域を前記幅方向から挟む一对の前記接合溝の内側に、前
記表面シートが配置されていることを特徴とする吸収性物品。
- [請求項8] 請求項6又は7に記載の吸収性物品であって、
前記接合溝は、前記横断溝よりも後側において前記吸収性物品の幅
方向中心を幅方向に横断する後方横断溝であって、表面シート、前記
カバーシート及び前記吸収体を厚み方向に圧縮して接合する後方横断
溝を有しており、
前記後方横断溝が、前記表面シートの前記幅方向の内側に配置され
ており、
前記後方横断溝の端部より外側の前記表面シートには、前記接合溝
が形成されていないことを特徴とする吸収性物品。
- [請求項9] 請求項1～8のいずれかに記載の吸収性物品であって、
前記接合溝は、前記横断溝よりも後側において前記吸収性物品の幅
方向中心を幅方向に横断する後方横断溝を少なくとも2つ有しており
、
前記横断溝と前記後方横断溝との間の前記エンボスパターンと、2
つの前記後方横断溝の間の前記エンボスパターンとが異なる
ことを特徴とする吸収性物品。
- [請求項10] 請求項1～9のいずれかに記載の吸収性物品であって、

前記接合溝は、前記横断溝よりも後側において前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する後方横断溝を有しており、

前記後方横断溝の曲率半径は、前記横断溝の曲率半径よりも大きいことを特徴とする吸収性物品。

[請求項11] 請求項1～10のいずれかに記載の吸収性物品であって、
前記接合溝は、前記横断溝よりも後側において前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する後方横断溝を有しており、
前記後方横断溝が、前記吸収性物品の2つの折り線部の間に位置することを特徴とする吸収性物品。

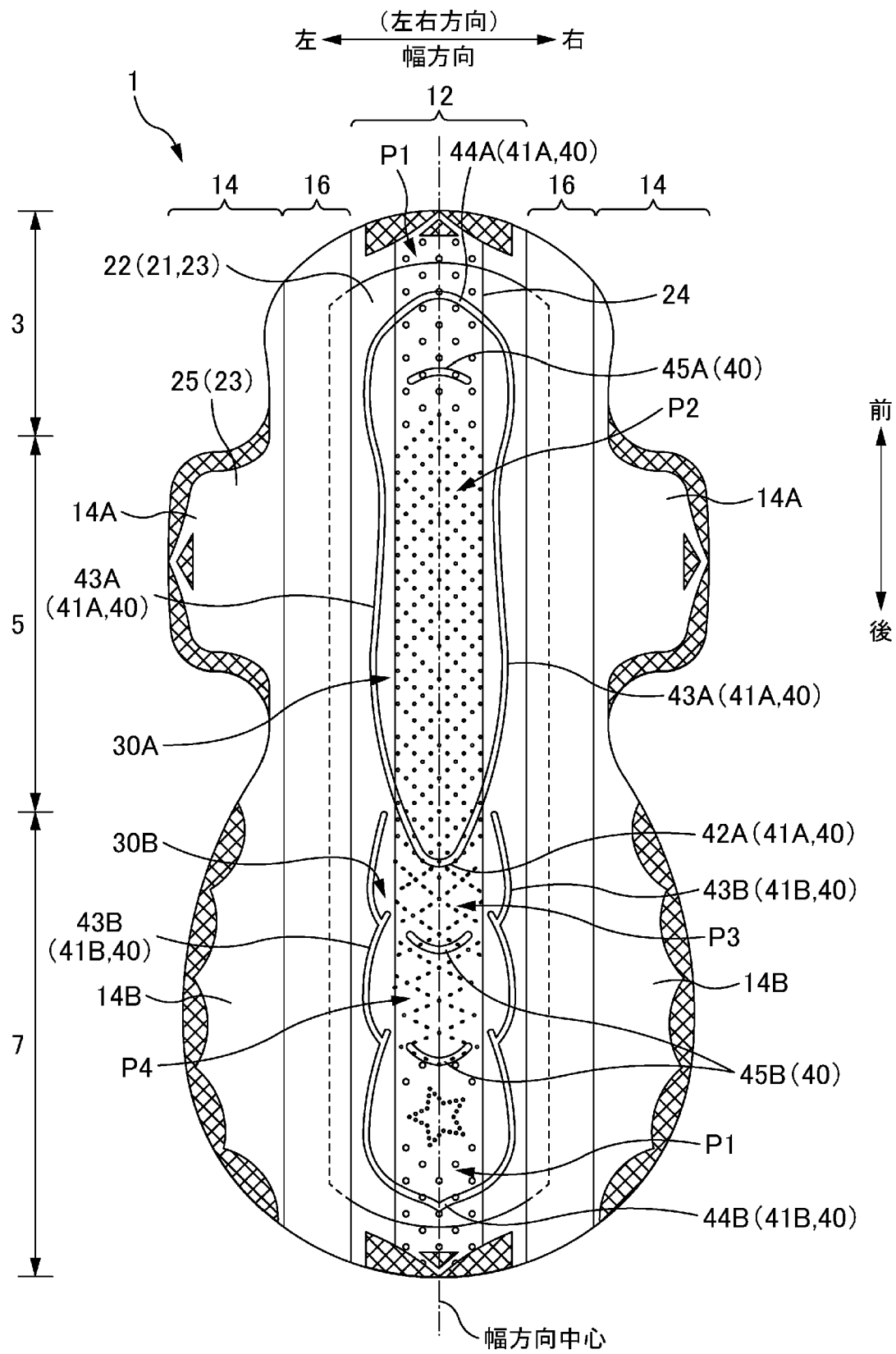
[請求項12] 請求項1～11のいずれかに記載の吸収性物品であって、
前記エンボスパターンが変化する境界領域と、前記吸収性物品の折り線部とが重複することを特徴とする吸収性物品。

[請求項13] 請求項1～12のいずれかに記載の吸収性物品であって、
前記吸収性物品の幅方向中心を幅方向に横断する複数の接合溝の前後方向の間隔が、前記中央領域に近いほど狭いことを特徴とする吸収性物品。

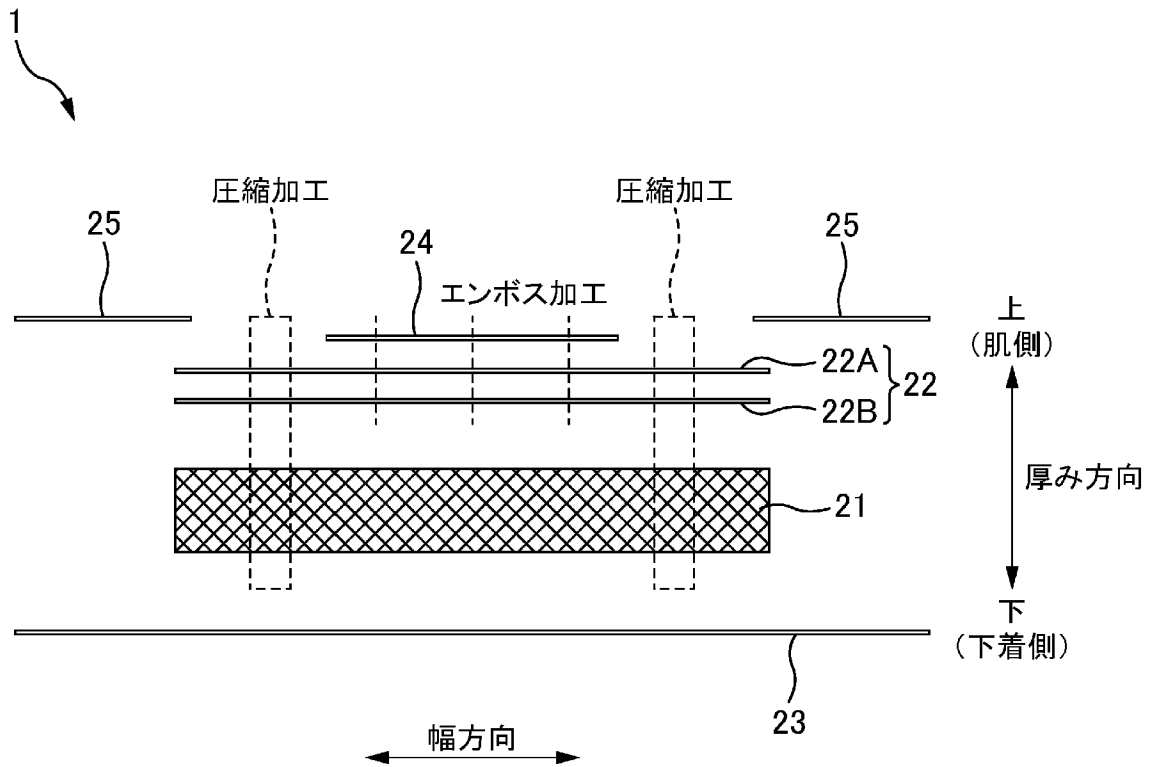
[請求項14] 請求項1～13のいずれかに記載の吸収性物品であって、
前記後方領域に形成される前記エンボスパターンは、前記吸収性物品の幅方向中心に並ぶ複数の菱形模様を形成しており、
前記菱形模様の前記幅方向の対角線は、前後方向の対角線よりも長いことを特徴とする吸収性物品。

[請求項15] 請求項1～14のいずれかに記載の吸収性物品であって、
前記後方領域に形成される前記エンボスパターンは、前記吸収性物品の幅方向中心に並ぶ複数の菱形模様を形成しており、
前記複数の菱形模様は、後側ほど大きく形成されていることを特徴とする吸収性物品。

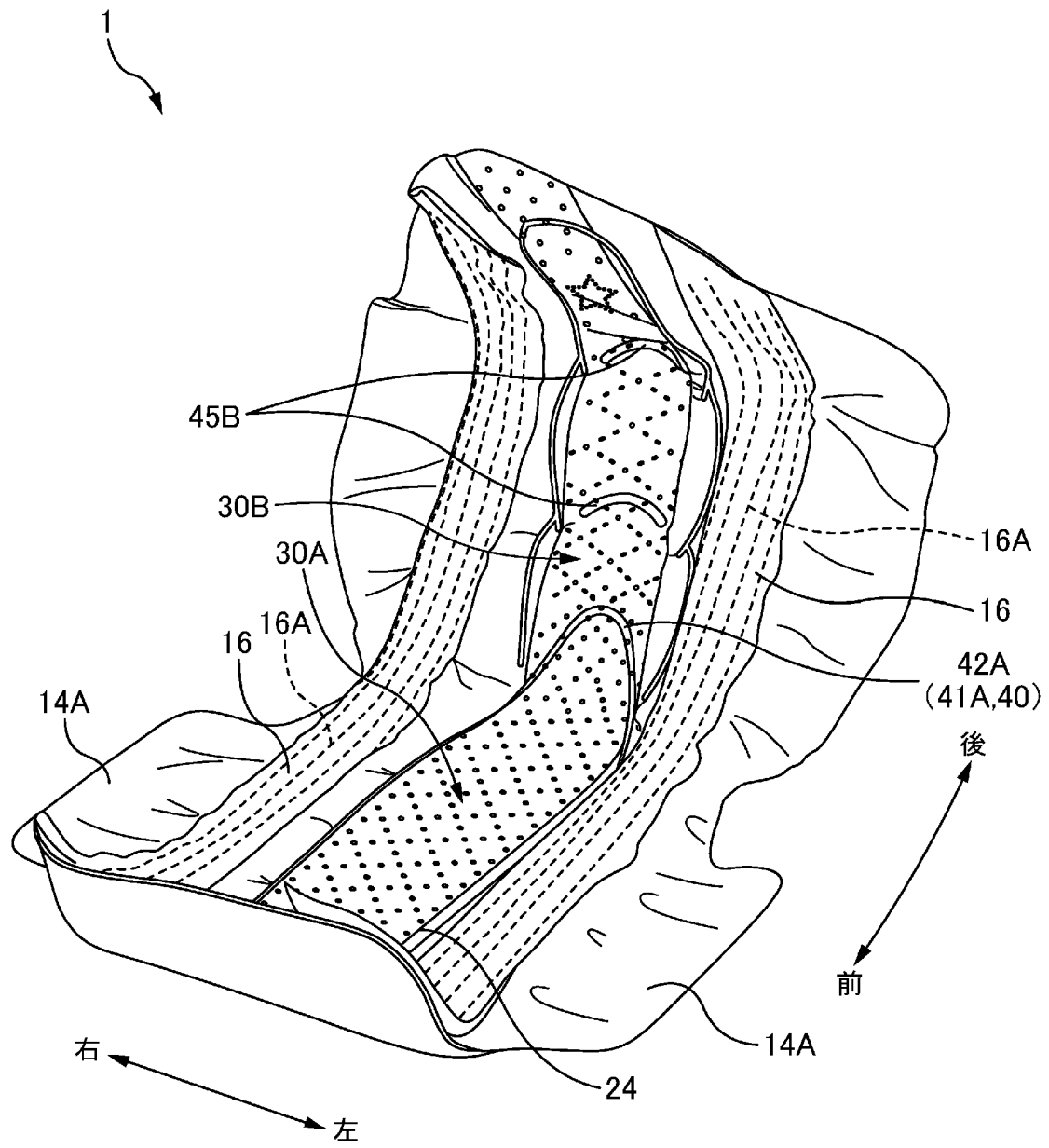
[図1]



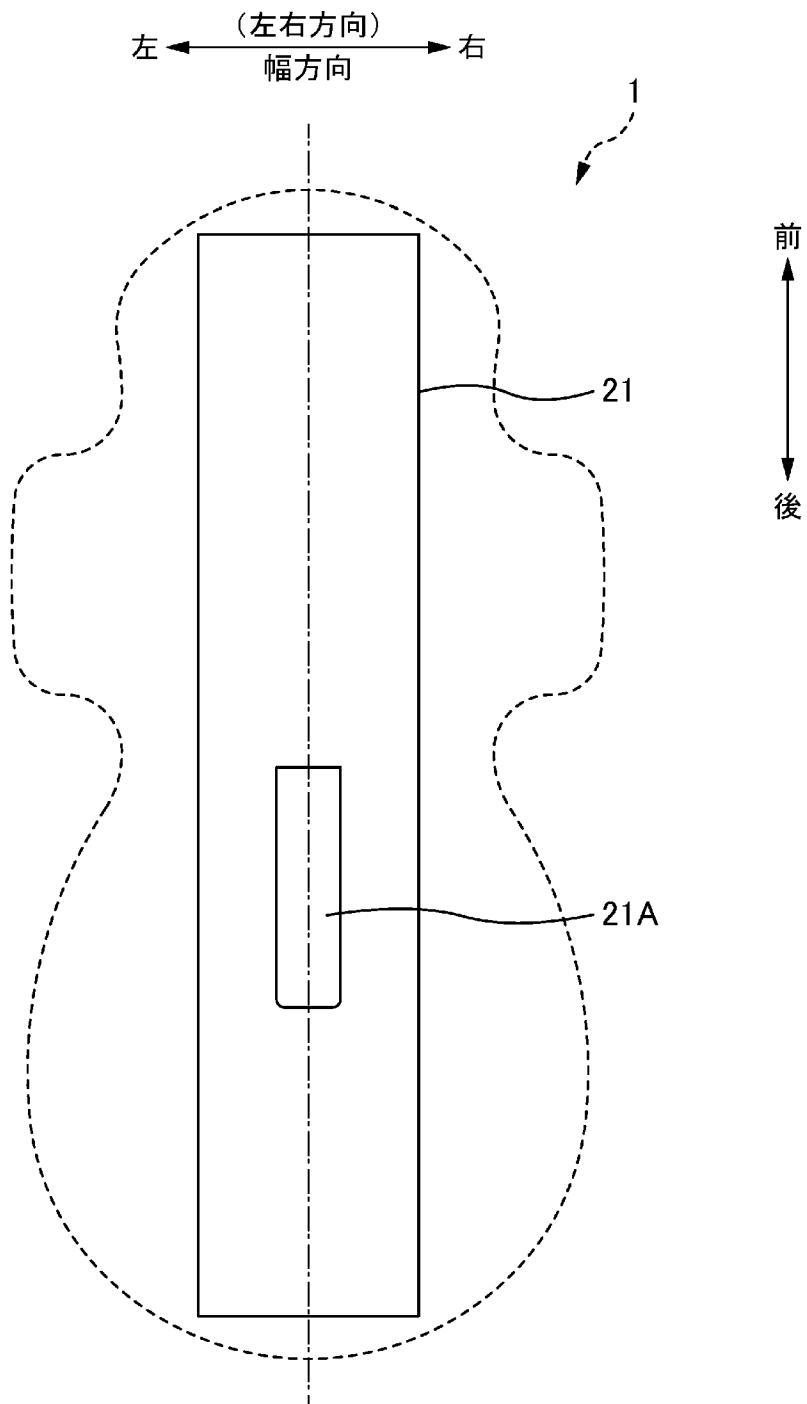
[図2]



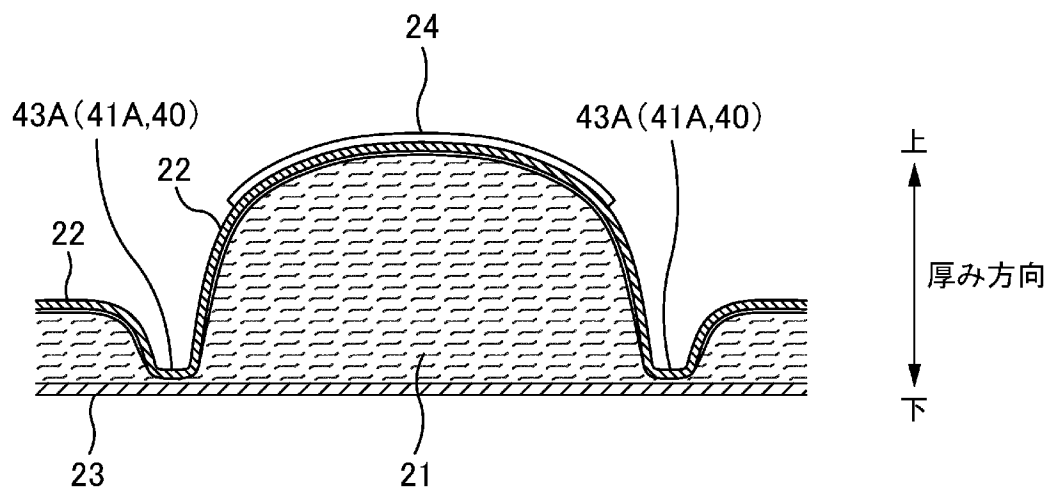
[図3]



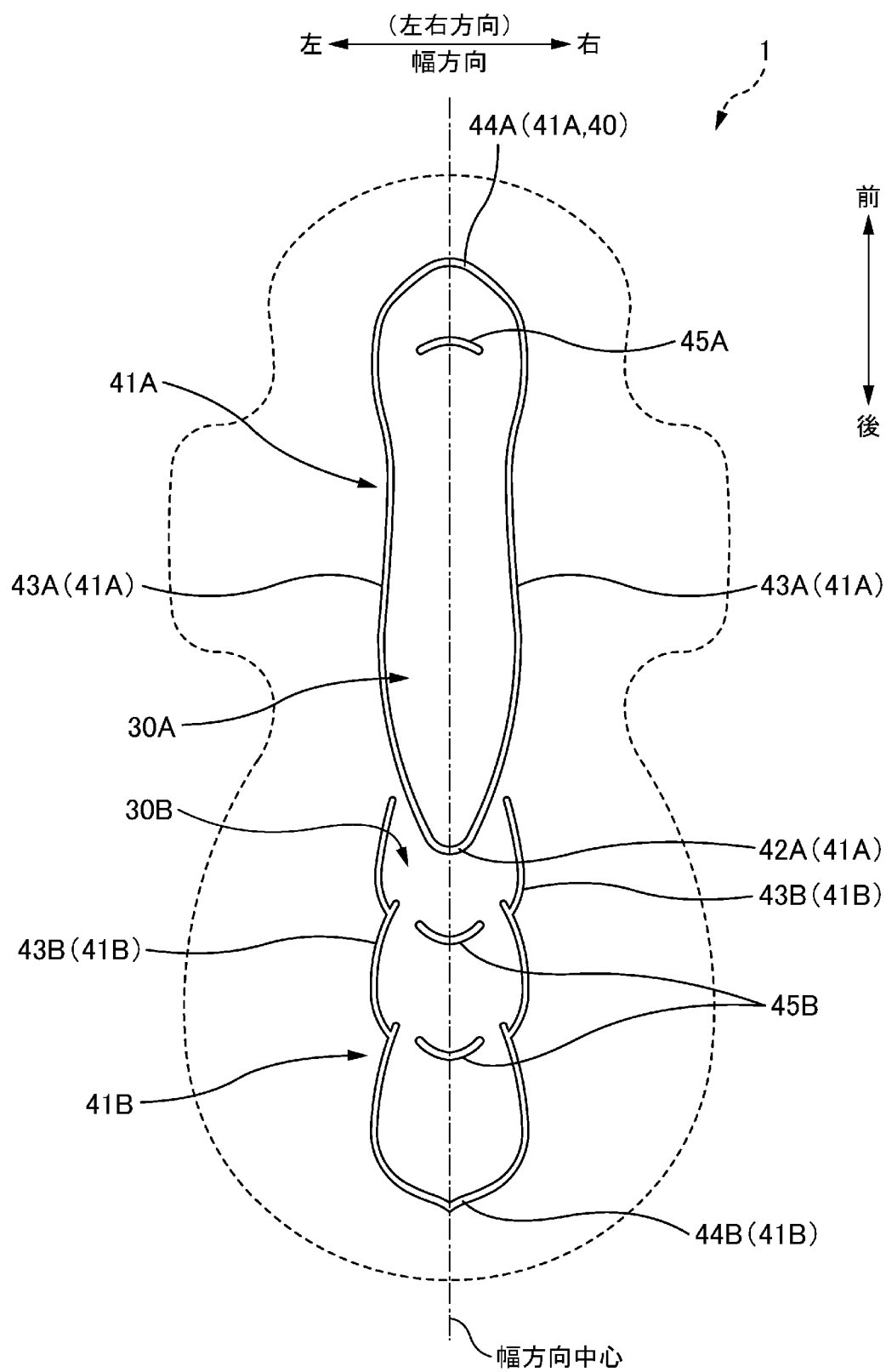
[図4]



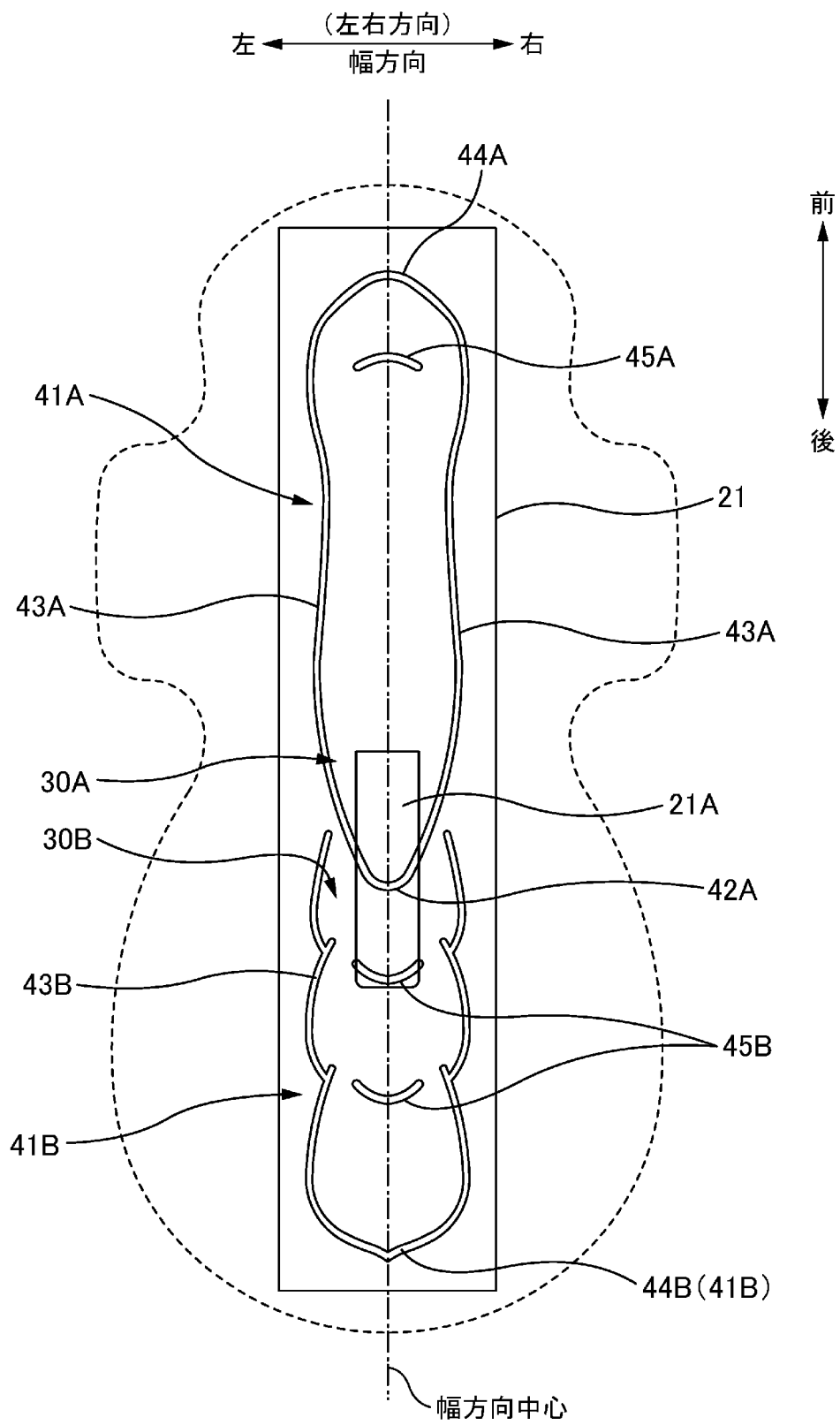
[図5]



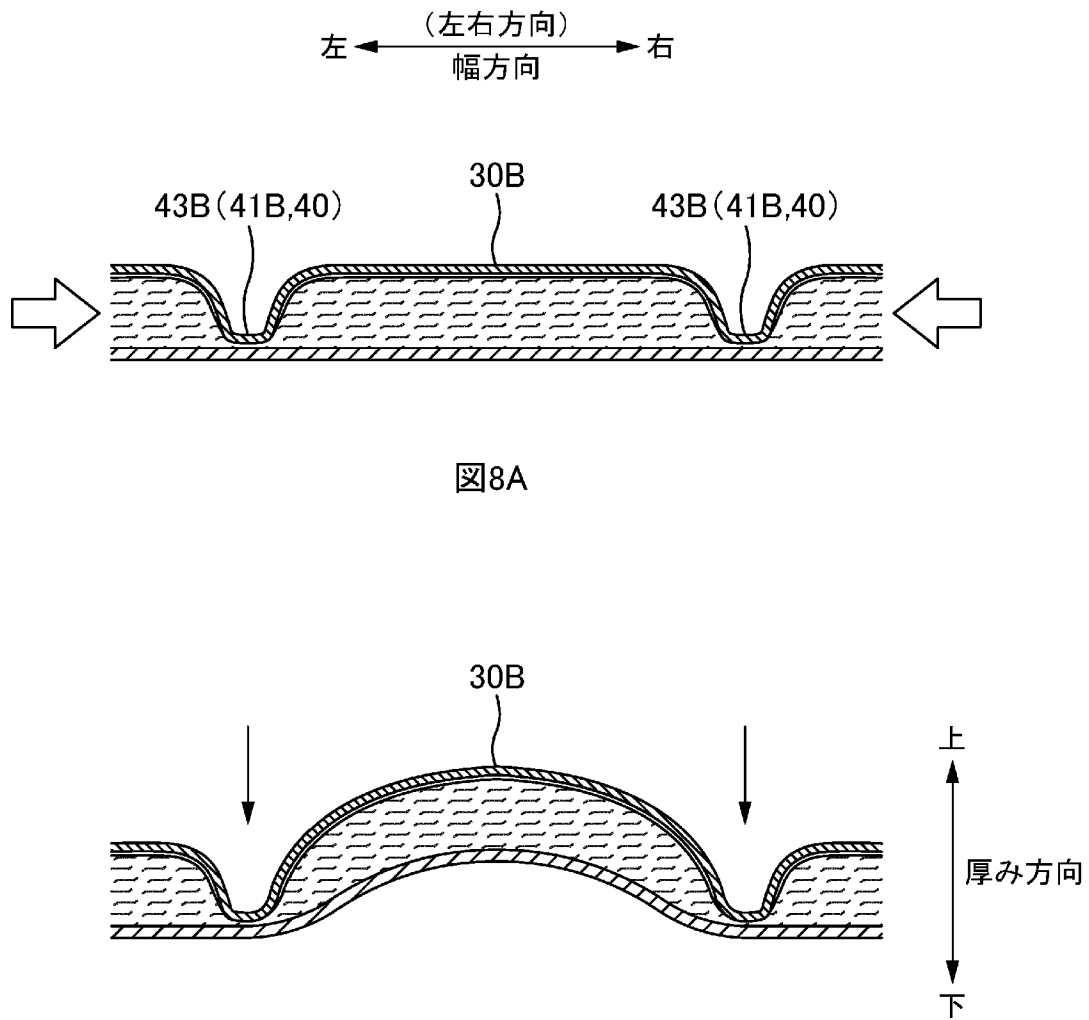
[図6]



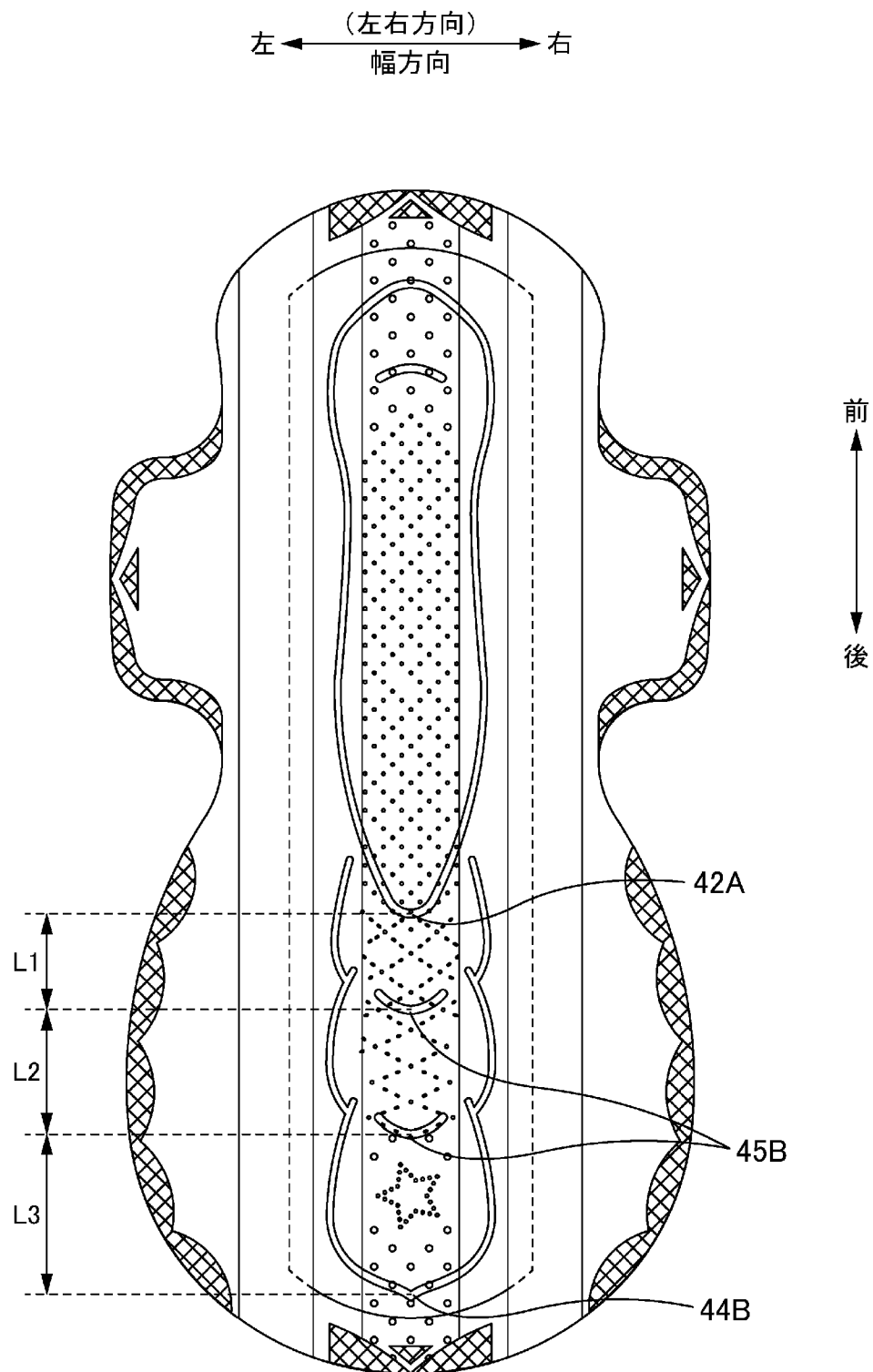
[図7]



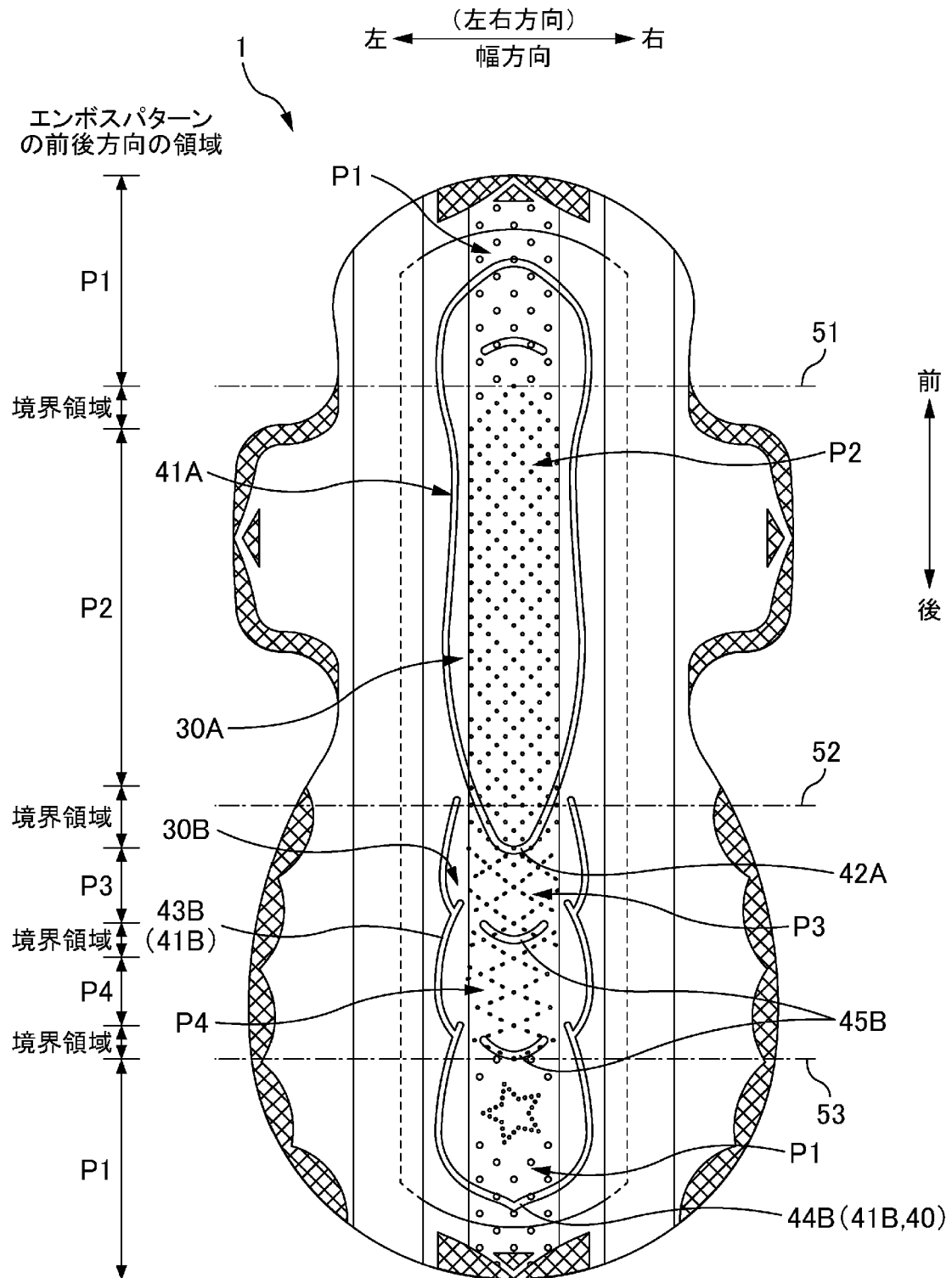
[図8]



[図9]



[図10]



[図11]

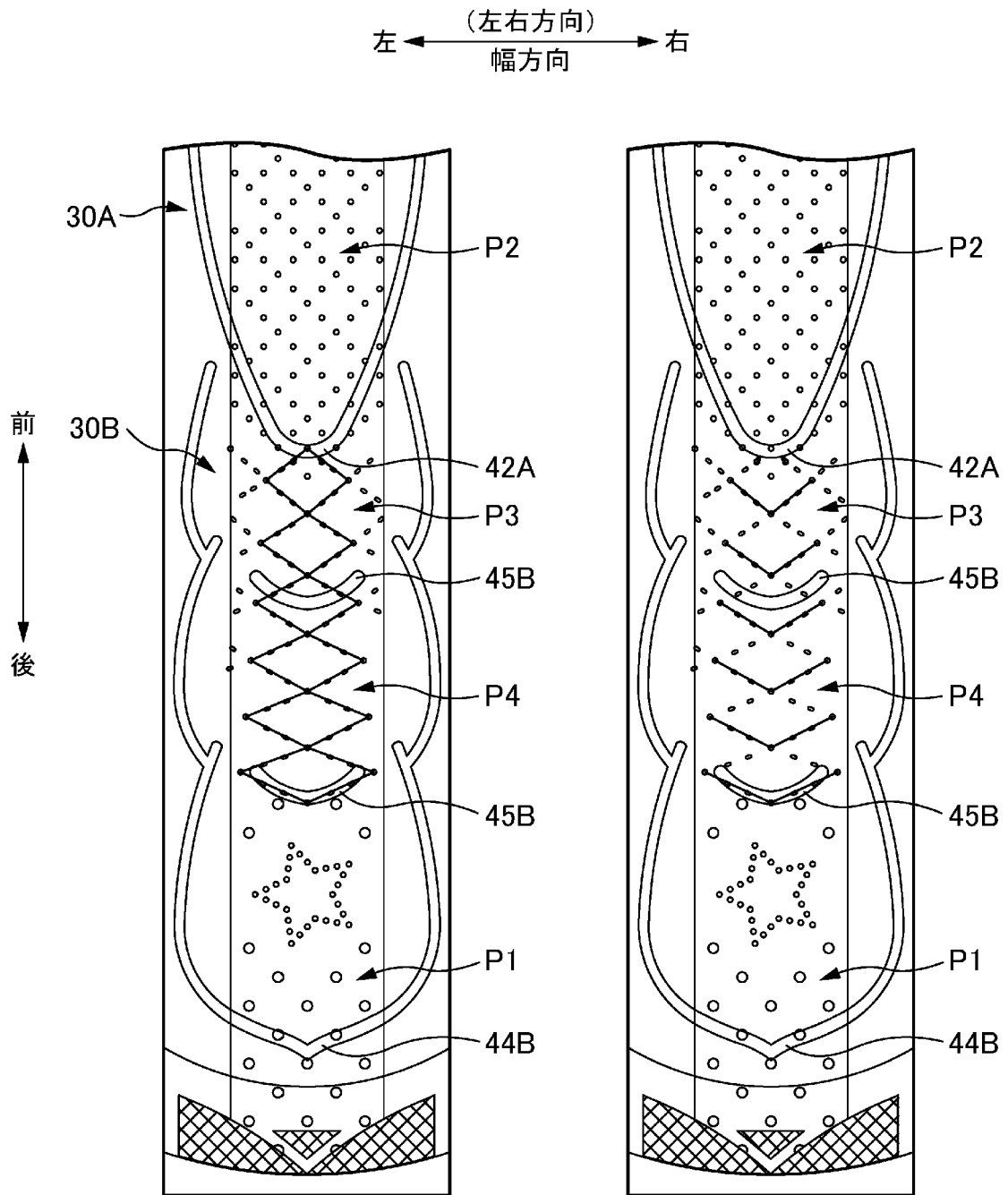


図11A

図11B

[図12]

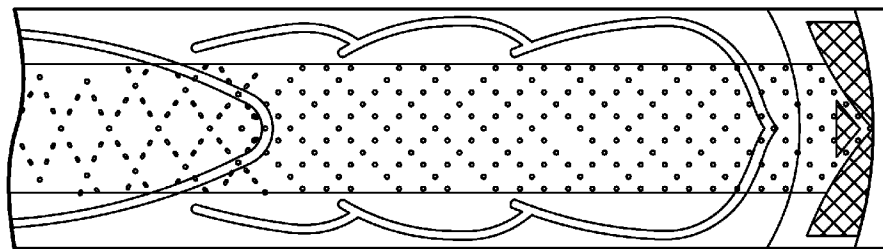


図12C

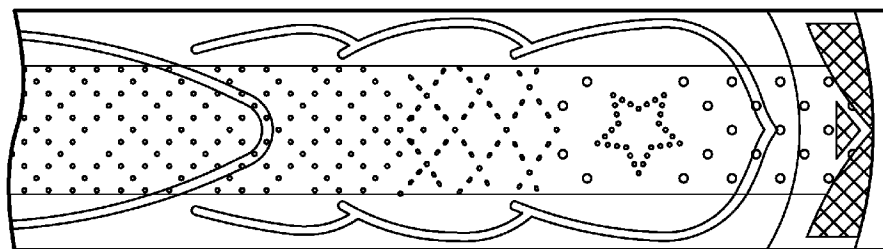


図12B

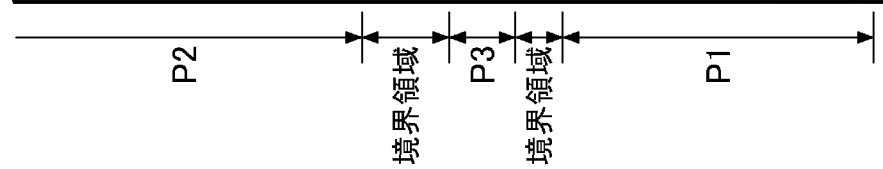


図12A

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/062334

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61F13/15(2006.01) i, A61F13/49(2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61F13/00, 13/15-13/84

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2015
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2015	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2015

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
X	JP 2008-132084 A (Uni-Charm Corp.), 12 June 2008 (12.06.2008), paragraphs [0018], [0024], [0030], [0033], [0034], [0048]	1, 2, 4, 6-8, 10-15 5
Y	& US 2010/0010464 A1 & WO 2008/065945 A1 & EP 2087864 A1 & KR 10-2009-0083375 A & CN 101541277 A	
Y	JP 2010-148708 A (Uni-Charm Corp.), 08 July 2010 (08.07.2010), fig. 3 & US 2011/0319851 A1 & WO 2010/074339 A1 & EP 2371333 A1 & KR 10-2011-0107346 A & CN 102264328 A	5

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
06 July 2015 (06.07.15)

Date of mailing of the international search report
21 July 2015 (21.07.15)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/062334

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
A	JP 2011-218158 A (Uni-Charm Corp.), 04 November 2011 (04.11.2011), entire text; all drawings & US 2013/0060218 A1 & WO 2011/118842 A1 & CN 102821722 A	1-15

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A61F13/15(2006.01)i, A61F13/49(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A61F13/00, 13/15-13/84

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 5 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 5 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 5 年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
X	JP 2008-132084 A（ユニ・チャーム株式会社）2008.06.12, 【0018】，【0024】，【0030】，【0033】，【0034】，【0048】	1, 2, 4, 6-8, 10-15
Y	& US 2010/0010464 A1 & WO 2008/065945 A1 & EP 2087864 A1 & KR 10-2009-0083375 A & CN 101541277 A	5
Y	JP 2010-148708 A（ユニ・チャーム株式会社）2010.07.08, 図 3 & US 2011/0319851 A1 & WO 2010/074339 A1 & EP 2371333 A1 & KR 10-2011-0107346 A & CN 102264328 A	5

☒ C 欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

0 6 . 0 7 . 2 0 1 5

国際調査報告の発送日

2 1 . 0 7 . 2 0 1 5

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A / J P）

郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

3 B

3 3 2 3

北村 龍平

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 3 2 0

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
A	JP 2011-218158 A (ユニ・チャーム株式会社) 2011. 11. 04, 全文, 全図 & US 2013/0060218 A1 & WO 2011/118842 A1 & CN 102821722 A	1-15